

やっぱり授業はワクワクする

10月25日(月)今年のピ-スセゾ-の一中報告会、どうだったでしょうか?緊急事態宣言の出ている7-8月、広島に行けないのはもちろん、代替企画として計画されていた浅川地下壕などにも行くことができません、かろうじてできたのがアジア太平洋戦争の概要・広島原爆についての事前学習授業、オンラインによる被爆体験聞き取り、平和公園碑めぐり、日立航空機立川変電所(空襲時の銃痕が残る)からの中継… だけだった中、2年生の4人はよくがんばった、と思います。もちろん、あれだけの原稿をつくるために放課後何回も残って、私や佐久間さんとやりとりで、原稿を書き直し、またよくわからないところは、もう一度オンライン ZOOM や電話で被爆者の方に再質問をして、その上練習をしての本番でした。(写真は、ZOOM での再質問 1)



29日(金)には、立川若葉台小にゲストチャ-として呼ばれ、4年生4クラスと一緒に玉川上水から小川分水を歩きました。途中、何力所かでクラスごとにちょっとした説明を入れます。小川橋からは玉川上水本流は追わず、小川分水に入り、その近くの公園で「玉川上水の水は、江戸の飲み水、将軍の飲み水でもあったから、途中で使うことはできません。今もそうですが、立ち入り禁止で水に触ることもできません。途中の村で使いたいときは、この小川分水のように、願い出て分水を引き、その水を使いました。つまり、分水なら、村まで行けば、どうやって使っていたか、そのようすも見ることもできるかも」と。

小川村は、狭山丘陵・岸村出身の小川九郎兵衛さんが、水が乏しく人が住めなかったこの地に分水を引いて作った新田村です。水路は青梅街道に出ると街道に沿って、それぞれの屋敷の中を流れ、それを飲み水に村が成立しました。



小川寺も九郎兵衛さん作ったお寺で、九郎兵衛さんのお墓もあり、そのワキを分水が流れます(←写真)。その後、屋敷森に囲まれた開拓時からの農家、竹内家の大櫓、そして屋敷の裏側に広がる畑。雑木林(ヤマ)を見て、学校に戻りました。

学校では、午後「質問タイム」。「小川分水は玉川上水から分かれる部分がトンネルになっていましたが、昔からそうだったんですか?」(胎内掘りといってトンネルの部分もありました)「分水の水は、それぞれの家で、どうやって使ったんですか?」(くんできて瓶などに入れて使います。自分の家に水路を引き込んだりしてはいけません) …

さて、そんな中、こちらから「きょう、田んぼを見ましたか」と問いかけました。分水の水では、田んぼは作れず、このあたりは「畑新田」だった、と言いたかったのですが…なんと4人が「(田んぼを)見た」と手を上げました。「えーッ、どこで?」と問い返すと「先生、田んぼって何ですか?」と。そうか、そういうこともありうるなあ…。

いろいろなことがあるけれど、子どもたちと授業(?) やるって、ワクワクするな、と。